



発行：真宗大谷派 常入寺
富山市東老田 787 番地
電話(076)436-0816
FAX(076)436-2766
携帯090-3764-3983
発行責任：青井和成

信じるよりいへば

私たちの教え、浄土真宗では「信心獲得」と言うことが私たちが一番しなければいけないこととされています。信心とは阿弥陀仏を信じる心、その心を体得することが私にとって一番大事なことです。しかし、信、信心という言葉に対する誤解が合ったことに最近気づかされた私です。

私たちの信というのは信頼という言葉で言われるようなものです。自分の思いになつたものを信頼したり、また自分の思いから外れると裏切られたと思ってしまう。私たちは信頼できると自分が判断したときにのみ少し信頼しようと思いません。それはどこまでいっても自分の思いから越えた信ではありません。浄土真宗の信は他力の

信心といわれるように自分を越えたところにおこる信頼です。ですから私たちが思うような信とは違うということなのでしよう。

仏教に関する辞書を開いてみると、「心を澄んだ浄らかなものにする作用」という風にかかれていました。お経の中にかかれてある「信」という字は、

もともとインドも昔の言葉の「シユラツダー」という言葉を翻訳したものだそうです。そのシユラツダーという言葉は日本の言葉に訳すると、心を澄んだ浄らかなものにする作用となるそうです。人汁ということの内実は心がきよらかになつていくということといえるのではないのでしょうか。今まで濁っていたものが少しずつ澄んでくる。今

まで濁って見えていなかったものが少しずつ見えるようになってくることを信ずることと言っても良いことでしょう。

何が見えてくるのかといえば真実ということなのでしょう。宗祖親鸞聖人の「念仏して往生をねがうしるしには、もたあしかりしわがころをもおもいかえして、ともの同朋にもねんごろのころのおわしましあわばこそ、世をいとうしるしにてもそうらわめとこそ、おぼえそうらえ。よくよく御ころえそうろうべし」ということをたよりにして考えると、真実が見えるとは自分の心の悪いところが見えてきて、さらに世の中におこっていることに厭わなければならぬことがたくさんあることを思い知らされることなのでしよう。

浄土に何故自分が生まれなければならぬのかということがはつきり見えてくるからこそ阿弥陀仏を信じてくるのが出来るのでしよう。

厭うとは、いやに思う・いやに思つて避けるという意味があります。もう一つ、大事にする・いたわるという意味があることにも注意しなければならぬと思うことです。

ご命日の集い

三月から再開します

城端別院 法宝物御巡回布教

日時 三月六日(金)

午前9時30分より

午後3時30分まで

会場 常入寺庫裡座敷

布教使 未定

ご命日の集いとは私たちの宗祖、親鸞聖人のご命日である二十八日に開催する仏事です。常入寺では三月から九月の間の毎月二十八日に勤めています。何をやっているのかといえば、実は難しいことは何もありません。宗祖親鸞聖人がお造りになられた「正信偈」といううたをみんなで節を付けて読んで、後はお茶を飲んでいただけです。それだけです。

皆さんも月に一度お寺に集いお茶しませんか？
どうぞお気軽に顔をお見せ下されれば幸いです。
お待ちいたしております。

毎月二十八日午後二時～三時ぐらいまで

とにかく一回来てくだされまっ！ たのんちゃあ

ご近所の方をお誘いの上是非お参りください。おまちいたしております。

前進座特別公演

法然上人八〇〇回忌 記念
親鸞聖人七五〇回忌

田島 栄二 作／橋本英治 演出

中村梅之助

念仏の声
弥陀の本願
いま道を照らす

嵐 圭史

今村文美

後援 浄土宗
浄土真宗本願寺派
真宗大谷派
推薦 (財) 全日本仏教会

法・能・と・親・鸞



2009年 4月8日(水) 開演 18:00 (開場 17:30) 富山県高岡文化ホール
(平成21年) 4月9日(木) 開演 14:00 (開場 13:30) 砺波市文化会館大ホール

観劇料 A席 6,500円 B席 5,000円 全席指定

主催 浄土真宗本願寺派(お西) 高岡教区・真宗大谷派(お東) 高岡教区 後援 北日本新聞社
お問合せ 高岡教務所 (お西) ☎ 0766-22-0887 (お東) ☎ 0766-22-0464

残りわずかになりました。ご観覧ご希望の方は今すぐ住職までご連絡ください。 ご用意いたします。(かも)